

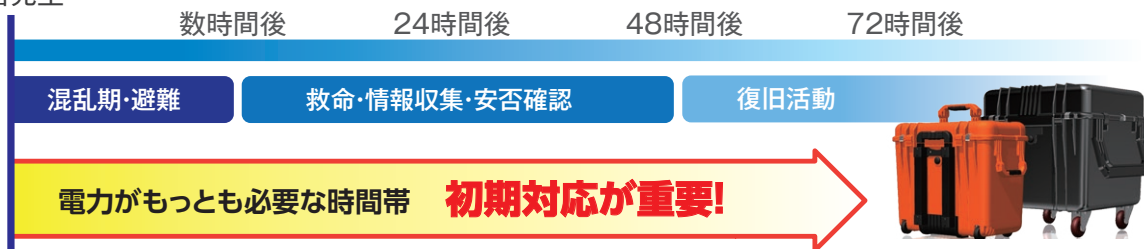
オーエス **どこでも発電[®]** と **どこでも蓄電[®]** は なぜ必要ですか？ どこに活用できますか？

災害発生後の初期対応にバッテリーユニットは必須です！

東日本大震災では、今まで信頼度の高かったエンジン式発電機の約3割が、メンテナンス不足のため、稼動していません。また、一番電力の必要な初期対応の時に燃料切れのため、電源の確保ができませんでした。今後の防災計画(BCP・MLCP)*の電源確保には、バッテリーユニットの導入が必須です。

※BCP:リスクが生じた時に業務が中断しないこと ※MLCP:災害時にマンション住民が共同生活を維持継続できること(▶P.5)

災害発生



セットでの
使用が
有効です

今後の防災計画は、**エンジン式発電機**



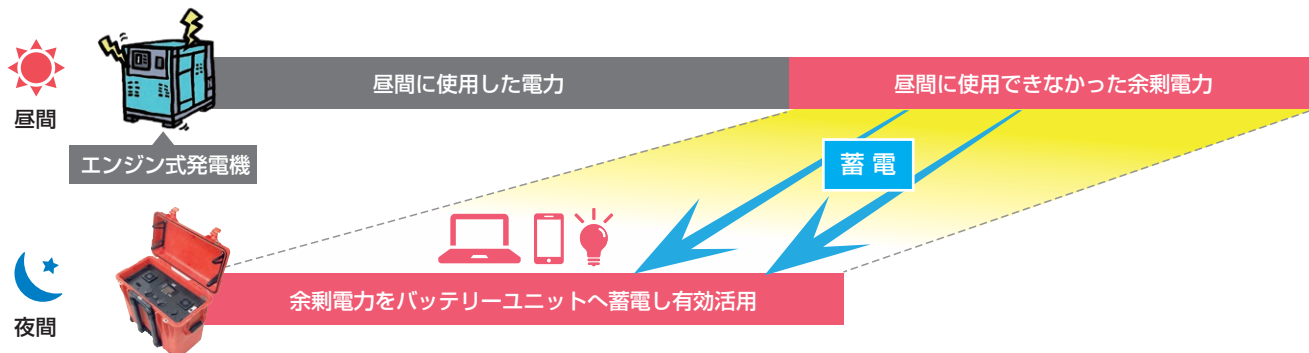
どこでも発電[®]

と

どこでも蓄電[®]

初期対応は、エンジン式発電機の余剰電力でバッテリーユニットを充電する

エンジン式発電機(定格出力1.6kVA)を稼動させると約1600Wを発電し続けます。しかし実際に使用している電力の量は微々たるものです。例えば**バルーン投光器(400W)のみの使用**とすると残りの約1200W分は消費できません(通常モード時)。

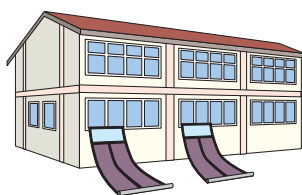


燃料が底をついた場合は、ソーラーシートでバッテリーユニットを充電する

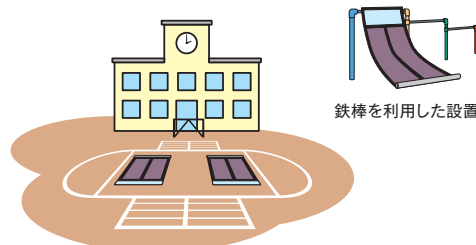
備蓄燃料には限りがあります。避難生活が長期になり、燃料が底をついた場合は、ソーラーシートから充電することができます。

ソーラーシートは丸めて収納できるので、ガラス基板ソーラーのように備蓄の場所を取りません。非常に軽く、耐久性があるので、衝撃により破損する可能性が少ないため、移動に適した理想的な太陽電池と言えます。

また仮設するための架台が要らず、低電圧設計のため安全で、誰でもどこでも簡単に設置することが可能です。



体育館(避難所)の壁面への設置



学校校庭(避難指定場所広場)への設置



鉄棒を利用した設置